

酪農ファーム活動により

子どもの思いやりが向上し、攻撃性が低減



研究者 東京成徳大学大学院心理学研究科教授：田村節子

共同研究者 東京成徳大学大学院心理学研究科教授：阿部宏徳 新井邦二

Case2 子どもの思いやりの向上や攻撃性の低減に関する効果の測定

調査概要

調査年 平成 25 年度

調査対象と活動内容

東京都荒川区立第七峽田小学校

4 年生 52 名

須藤牧場（千葉県）での酪農体験

【搾乳体験、酪農家の話、
牛や動物とのふれあい】

小学生の思いやりの向上と攻撃性の低減について、酪農教育ファーム活動が貢献できる可能性を探るため調査研究を行いました。1回の酪農体験で得られる効果に限界はあるものの、「酪農体験は思いやりを向上させる」「乳牛へのネガティブなイメージや印象を軽減できれば、暴力などの攻撃性の低減が認められる」など興味深い結果を得ることができました。

乳牛への肯定的な感情が 攻撃性を低減

この調査研究は、昨今の「いじめ」など教育現場における深刻な課題の解決や対人関係の向上の必要性も踏まえて実施されました。目的は、酪農体験が子どもの思いやりの向上と攻撃性の低減に与える効果について把握することです。

調査方法は、酪農体験前と体験直後、体験1週間後、体験3ヶ月後における子どもたちへの質問紙によるアンケート調査です。調査の結果で特徴的だったのが攻撃性の変化です。酪農体験を通して「牛がくさい」などネガティブなイメージが軽減すると、たたく・叫ぶ・罵倒するなどの行動を伴う「表出性攻撃」が低減されることが示されました。近年、子どもたちの間では、「くさい」「汚い」の言葉を本来の意味も理解しないまま平気で使い、時にはいじめの対象に向けるような状況も見受けられるようになりました。これと類似性が見られたのが、牧場に着くなり「くさい」と鼻をつまむ子どもたちの姿でした。この現象

は、ともすれば乳牛へのネガティブなイメージにつながる可能性があります。しかし乳牛と触れ合い、乳牛を大切に育てる酪農家の思いを知ることで、子どもたちの感情はいつの間にか乳牛を肯定的に捉えるようになりました。このことは、「くさい」と言って安易にいじめを行う子どもたちの現状を打開するための教育指導の教材になりうると考えられます。

子どもたちの変化を生む 酪農家の姿勢

次に、子どもたちの行動が変化する要因のひとつとして考えられる酪農家の姿勢について、酪農家へのインタビューと酪農体験時における酪農家の言動観察から、それらの記録を質的に分析しました。

酪農家の言動でまず注目したのは、牧場に着いた子どもたちの様子をさりげなく観察し、子どもたちの状況に合わせて話の内容を組み立てたということです。酪農家が事前に準備した話を一方的にするのではなく、相手に合わせて進める姿勢に柔軟な対応力

が感じられました。もうひとつ注目したのは、酪農家の子どもたちに寄せる信頼感です。大人の先入観で子どもを見るのではなく、子どもの考える力を信じ、目の前の子どもたちをありのまま受け入れるという酪農家のあり方は、教育現場での指導にそのまま活かすことができると思われました。

なお、体験直後に「酪農家の話で覚えていること」について子どもたちにインタビューしたところ、「乳牛のいのち」に関するカテゴリーの内容が上位を占めました。中でも「乳牛がお肉になる」話が、子どもたちにインパクトを与えました。(表1)

表1：「酪農家の話」で覚えていること

カテゴリー (上位)	件数	具体的な内容	件数
乳牛のいのちについて考えた	52	乳牛がお肉になる	27
		子牛と母牛が死んだ	17
		食べものはいのちをいただいている	8
酪農や牧場について知ることができた	36	生き物がたくさんいてかわいかった	16
		また行きたい、楽しかった	6
		牛を飼っている人はすごい	5
		ソフトクリームがおいしかった	5
		その他	4

子どもにポジティブな変化をもたらす

最後に、「酪農体験は、子どもにポジティブな変化をもたらす」ことを検証するため、体験前のアンケート調査で結果が特徴的だった子どもたち22名にインタビューを行い、体験前・後の変化を質的に分析しました。

まず、「乳牛や牧場に対するイメージや気持ち」については、体験前はネガティブなイメージが一番多く9件の回答がありました。体験後は6件に減り、逆にポジティブなイメージが5件から15件に増えました。体験前の「行きたくない」「気持ち悪くなるのが心配」などの発言が、体験後は「面白くなった」「気持ち悪かったのが、気がついたらなくなっていた」「乳

牛がかわいくなった」などポジティブな気持ちに変化しました。(表2)

次に、「一緒に体験した友達へのイメージや気持ち」を聞いたところ、「みんなが積極的だった」「ふつうより友達がきれいに見えた」「友達が親切で丁寧だった」「乳搾りが上手だった」「学校より10倍笑顔だった」など、プラスの方向で友達を見ることができるようになりました。これらのインタビューから伺えることは、「酪農体験は子どもにとって、日常では得られないポジティブな変化をもたらす効果がある」ということです。友達への見方が変わり、関心度も増し、その気持ちが思いやりにつながる可能性が示されました。

表2：体験前後で乳牛や酪農について気持ちの変化

体験前			
カテゴリー (上位)	件数	具体的な内容	件数
ポジティブなイメージや気持ち	5	楽しみだった	3
		臭いはない、きれいなイメージだった	2
ネガティブなイメージや気持ち	9	嫌な・汚い・臭いイメージがあった	9
体験後			
カテゴリー (上位)	件数	具体的な内容	件数
ポジティブなイメージや気持ち	15	よかった、楽しかった	9
		思ったよりきれいだった	3
		気持ち悪いのがなくなった、慣れた	2
		乳牛がかわいくなった	1
ネガティブなイメージや気持ち	6	思ったより臭かった、汚かった	6
乳牛に対する思いが強くなった	5	乳牛がかわいそうに思った、悲しそうに見えた	5

一般社団法人 中央酪農会議 / 酪農教育ファーム推進委員会
〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町 2-6-1 堀内ビルディング 4F
【TEL】03-6688-9841 【FAX】03-6681-5295
【URL】<http://www.dairy.co.jp/edf/>
【公式 Facebook ページ】<https://www.facebook.com/rakunoukyouikufarm/>